

二次性副甲状腺機能亢進症におけるシナカルセトからエテルカルセチドへ変更時の骨代謝マーカーと骨塩量の変化

医療法人衆和会 長崎腎クリニック

○橋口純一郎 河津多代 澤瀬健次 原田孝司 船越 哲

【目的】

Ca 受容体作動薬シナカルセトからエテルカルセチドへ変更時の骨代謝マーカーと骨塩量の変化を観察する

【方法】

対象はシナカルセト服用中の二次性副甲状腺機能亢進症の外来透析患者 10 名。方法はシナカルセトからエテルカルセチドに変更し、骨吸収マーカー (TRACP-5b、NTx)、骨形成マーカー (BAP) 及び DIP 法での骨塩量を測定する。観察期間は 6 か月とした。

【結果】

TRACP-5b は変更前の 710.3 mU/dL から徐々に低下し、6 か月後には 420.9 ($P < 0.05$) まで低下した。NTx も 179.6 nmol BCE/L から 112.1 ($P < 0.05$) まで低下し続けた。一方 BAP は 13.8 μ g/L から 14.3 と変化しなかった。骨密度は、2.29 から 2.41 へ有意に上昇していた ($P < 0.005$)。

【結論】

二次性副甲状腺機能亢進症においてシナカルセトからエテルカルセチドへの変更時に骨吸収マーカーは漸減するが骨形成マーカーは変化しない。この結果、骨塩量は上昇する。